

授業概要

経済は経済法則にしたがって動いている。それはミクロ経済においても同様である。しかしながら、ミクロ経済で機能している法則を足し合わせても、それがマクロ経済でも同様に機能するわけではない。マクロ経済学を理解するためには、マクロ経済で機能する法則を理解する必要がある。マクロ経済はミクロ経済を単純に足し合わせたものではないからである。

また、マクロ経済は一国の経済の大きさを示すものである。そこで、本講義では、一国の経済の大きさをどのようにして計測するか、について議論し、続いてそうして計測された経済の流れがどのような法則にしたがって動いているか、について議論したい。さらに、不況にあって経済の流れが滞っているとき、どのようにして経済を活性化することができるか、について議論をしたい。

授業計画

第 1 回	はじめに—ミクロ経済学との違い
第 2 回	国の経済活動の計測
第 3 回	国民所得の計測
第 4 回	新SNA体系—GNPからGDPへ
第 5 回	三面等価の法則
第 6 回	消費関数
第 7 回	需要国民所得と供給国民所得
第 8 回	均衡国民所得の決定
第 9 回	インフレギャップとデフレギャップ
第 10 回	乗数効果
第 11 回	有効需要政策
第 12 回	ケインズ政策とは？
第 13 回	合成の誤謬
第 14 回	マクロ計量モデルの作成
第 15 回	おわりに—マクロ経済学の microfoundation
第 16 回	定期試験

到達目標

マクロ経済現象をマクロ経済学のツールを用いて完全に理解してもらいたい。最終的には、経済を動かしている原動力とは何か、さらにそうした力がどのようなメカニズムで経済を動かし、経済を健全に運営するためにはどのような政策が必要とされるか、について見識をもってもらいたい。

履修上の注意

ミクロ経済で通用する法則がマクロ経済学で通用しない理由を理解するためには、ミクロ経済学を理解している必要がある。また、実際の経済データを用いてモデルを作成するので、数学と統計学の講義を受講し、その内容を理解しておいてもらいたい。

予習・復習

講義中にその講義の内容を理解できるよう、真剣に聴いてもらいたい。テキストは使用しないが、本講義の内容は極めてオーソドックスなものであるので、「マクロ経済学」とかかれた書籍であれば、間違いなく参考になる。

評価方法

定期試験の点数で評価することになる。しかしながら、定期試験の出来次第では、出席状況を加味することも考えられる。

テキスト

特に、指定しない。